

1170 | 日本画 III

3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

重政啓治教授、岩田壮平准教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

古典の模写を行うことで古来の作品を鑑賞しながら日本画の素材がどのように扱われ使用されて来たかを探り、その中にある様々な技法や様式を再現することで、基本としての日本画の素材を扱う方法や描法の研究をする。

通信授業では、線の美しさや勢いのある線の練習をして筆力を養う。面接授業では、鳥獣戯画等の絵巻物を模写することで、各種の線描法と上げ写し法を学び、彩色模写では、障壁画等に見られる多種多様な技法や技術、工程法などを知り、地作りから仕上げまでを行う。

課題の概要

○通信授業課題「墨で描く」

筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドウサ引き）などを使い分けたくさんの線描を行う。又、筆を使った線描法でデッサンをする。

○面接授業課題「古典模写」

古典の模本をもとに線描による模写、彩色による模写をする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』の「日本画Ⅲ」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

[面接授業]

第1日	午前：前提講義及び制作「線描模写」	午後：制作
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
第4日	午前：前提講義及び制作「彩色模写」	午後：制作
第5日	午前：制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「日本画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（日本画コース3年次編入学生を除く）。

[備考] 油絵学科日本画コース3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

学習指導書：『日本画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

1180 | 日本画Ⅳ

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

重政啓治教授、内田あぐり教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形的美しさを把握し、人から受ける内面性を探りながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

通信授業では、身近な人をモデルにイメージを捉えることを重点に学び、面接授業では、デッサンと制作を通して人を描くための下図の作り方、人体と空間の関係、構成等を学び、更に、独自の表現をするための岩絵具による色彩の研究、支持体、マチエール等、日本画の様々な技法を研究して人体制作をする。

課題の概要

○通信授業課題「人物を描く」

身近な人、又は自己をモデルに次の条件でクロッキー及びデッサンをする。又、デッサンをもとに日本画制作をする。

- ・人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
- ・身近な人や自己をモデルに身体のデッサンをする。
- ・クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

○面接授業課題「身体を描く」

- ・人体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 平成 30 年度』の「日本画Ⅳ」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（デッサン）
第 2 日	午前：制作（デッサン）	午後：制作（デッサン）
第 3 日	午前：制作（準備・下図）	午後：制作（下図）
第 4～5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「日本画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 油絵学科日本画コース 3 年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

学習指導書：『日本画Ⅲ～Ⅴ 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）

1190 | 日本画V

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

重政啓治教授、山本直彰教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星見講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

和紙、絹本等、様々な支持体の研究を通して日本画表現を学ぶ。静物や自由な発想によるテーマをもとに描画材との関係と幅広い独自性のある表現法を知り体感することで、素材の重要性を知る。

通信授業では、和紙の特性を知り、染める、加工する等の支持体を考察したものを利用して制作する。面接授業では、基本としての絹の扱い方を学び、制作する。

課題の概要

○通信授業課題「素材と技法」

天然染料としての草木などや化学染料を利用して和紙を染める。更に、それを支持体とし、静物などをモチーフに日本画制作をする。

- ・身の回りにある染料を用いて和紙を染める。
- ・染めた和紙を使い、日本画制作をする。

○面接授業課題「絹に描く」

尺八サイズの絹本に日本画制作をする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』の「日本画Ⅴ」、教科書『日本画・表現と技法』の「自由に描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

[面接授業]

第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「日本画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科日本画コース3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版社 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版社 2004年）

学習指導書：『日本画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

1200 | 日本画VI

3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

重政啓治教授、西田俊英教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星見講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

日本画における装飾性や意匠（＝形象化）と構成について学ぶ。日本画素材の特徴のひとつである金箔、銀箔のあかし方、野毛等の技法や扱い方を知り、制作を通して箔を使用した絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。

通信授業では、デッサン、下図等をもとにした画面上での構成、イメージによる造形、自由な展開への試みを行う。面接授業では、箔を扱い取り入れた描き方、描くことで発生する独自の形と構成を研究する。

課題の概要

○通信授業課題「意匠研究」

対象物を形象化し日本画の顔料を使うのに適した形を描く。又、制作工程を意識した日本画制作をする。

- ・制作を意識したデッサン、下図及び制作日記を制作する。
- ・制作工程を意識したF25号以上の日本画制作をする。

○面接授業課題「表現研究」

素材と意匠を考え、構成による独自の形で30号以上の日本画制作をする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画VI・VII／卒業制作 平成30年度』の「日本画VI」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

[面接授業]

第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（下図研究）
第2日	午前：箔指導（ゼミ）	午後：制作
第3～5日	午前：制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 日本画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

[備考] 油絵学科日本画コース4年次必修科目。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版社 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版社 2004年）

学習指導書：『日本画VI・VII／卒業制作 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

1210 | 日本画 VII

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

重政啓治教授、尾長良範教授、西田俊英教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星見講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

自由なテーマで日本画表現を学ぶ。個々にあったテーマ、素材や表現方法を探り、自己のオリジナルな表現へと展開して行く。独自の表現、描きたいものは何か、ということを常に問題意識として持ち、テーマの内容と日本画の素材との必然性を考えながら、制作する上での確かな描写力、技術力、表現力を追求する。

通信授業、面接授業ともに、卒業制作取り組み前の科目として自己の課題の研究に取り組む。

課題の概要

○通信授業課題「自由制作」

自己の制作をする為の資料として、各自それぞれの手法でデッサンをし、又は素材の引用などを行い下図やアイデア画を描く。さらにそれをもとに日本画制作をする。

○面接授業課題「自由制作研究」

「自由に描く」をテーマに、自己の課題を考え、高い完成度を目標に 50～100 号の日本画制作をする。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成 30 年度』の「日本画Ⅶ」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（下図研究）
第 2 日	午前：裏打ち指導（ゼミ）	午後：制作
第 3 日～5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 「日本画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（『学生ハンドブック』p.051 の特例を除く）。

[備 考] 油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。

「日本画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「日本画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

教材等

教科書：『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版社 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版社 2004 年）

学習指導書：『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）